

【事業の目的】

避難所における食の質を確保し、栄養状態を保つことで、「災害関連死」を防ぎ、地域防災力の更なる向上を目指す。

※令和6年能登半島地震では、食料の不足や、カップ麺、レトルト食品を中心とした食事が続く等、災害時の食の課題が浮き彫りとなった。

令和7年度事業概要

(1) 食支援体制整備に向けた研修会の開催【6/17】

- 講演「いざという時どうする？あなたの食と栄養」

講師 (公社)味の素ファンデーション

原 裕樹 氏

- 事例発表(総合支庁防災担当、自衛隊、市町、県、栄養士会等)

- ワークショップ

防災担当職員、行政栄養士、保健師、ボランティア73名参加。

→災害時の食支援と自治体体制整備の必要性を確認。



グループワーク発表

(2) 被災者の健康と栄養を支える研修と炊出し献立の検討【7/8】

- 講演「災害時の食の実際～人こそが人を支援できる～」

講師 (公社)ピースポート災害支援センター

大塩さやか 氏

- ワークショップ「炊出し献立の作成」

管理栄養士、防災担当職員等93名参加。

県内4保健所合同開催

→備蓄食と献立の備えの重要性を確認。



ワークショップの状況

(3) 炊出し献立試作検討会の開催【8/22】

- 試作及び試食による評価(10品)

市町管理栄養士が作成したレシピ(23品)から、炊出し訓練で提供するメニュー検討を兼ねて開催。(レシピはホームページ公開予定(3月))



例)ツナと野菜ジュースのビタミンごはん(アルファ化米使用)

(4) モデル市町の炊出し訓練と住民への啓発

①尾花沢市健康フェスタ【10/4】 ②朝日町防災・環境フェア【10/5】

- ボランティアと連携した炊出し訓練と試食
 - 備蓄食品、栄養補助食品の展示と試食等
- 各自治体防災担当課と連携体制を構築し、食支援活動の周知と食品備蓄の啓発を実施。



炊出し訓練



食品備蓄の啓発

(5) 報告会の開催【2/25予定】

- 講演・助言 (公社)日本栄養士会 専務理事・JDA-DAT統括 下浦佳之 氏

→令和7年度の取組状況などを報告。

令和8年度実施予定

テーマ 要配慮者が「生きるための食」を準備しよう

(1) 食支援活動研修会の開催

- 要配慮者の食支援の理解を深め、スキルを身に付ける研修会を実施
- 避難長期化に対応したモデル献立を作成(ワーキング)

(2) 多職種連携フォーラム開催【新規】

- 災害時の「食べる」を支える多職種を集め、「災害時の要配慮者の健康を支える」をテーマに講演
- 歯科、リハビリ、栄養士、福祉関係者等専門職によるパネルディスカッションを実施

(3) 炊出し訓練の実施

- 市町の防災イベントにおける炊出し訓練の実施
- 住民に対する食品備蓄の啓発